

キーワード

ビーチクリーン、サンゴの有性生殖、
タンチョウの保全

フィールド

奄美・沖縄地域、北海道鶴居村



活動目的

希少種たちの宝庫である地域の生物多様性と自然環境を保全し、豊かな地球を次世代へ引き継ぐ

活動内容

<ビーチクリーン>

鹿児島地区の日本エアコミューター（JAC）とJAL鹿児島支店、沖縄を本拠地とする日本トランスオーシャン航空（JTA）や琉球エアコミューター（RAC）など沖縄地区JALグループでは、海岸のゴミ拾いを行うビーチクリーン活動など、地域と一体となって自然環境の保護や啓発に努めています。2019年には、地元企業や団体をつなぎ世界遺産登録を推進する「世界自然遺産推進共同企業体」（沖縄）、「世界自然遺産推進共同企業体」（鹿児島）を発足。参加企業・団体の強みを生かし、自然環境保護や自然を生かした地域振興に取り組んでいます。

<サンゴの有性生殖>

2020年4月、日本トランスオーシャン航空（JTA）は一般社団法人水産土木建設技術センターなどとともに「有性生殖・サンゴ再生支援協議会」を設立しました。当協議会は有性生殖法によるサンゴ再生活動を支援する団体であり、JTAは資金面の支援に加えて、支援企業の募集や取りまとめ、広報誌の作成支援に関わっています。現在、沖縄県石垣市にある八重山漁業協同組合を6年にわたり支援する計画のもと、八重山でのサンゴ再生活動が自走するような仕組みを検討しています。有性生殖法とはサンゴの卵から育成する方法であり、2018年までに水産庁の技術開発により、海域で自然に近い形で効率よく受精させ、大量の種苗が生産できるようになりました。八重山漁業協同組合は、この高い技術力を要するサンゴ増殖に当協議会の技術指導を受けながら取り組んでいます。協議会では、今後支援地区の拡大にも取り組んでいく予定です。

<タンチョウの保全>

国の天然記念物であるタンチョウの保全活動として、2016年から年に1回、北海道鶴居村でJALグループ社員有志によるタンチョウの採食地の環境整備を実施しています。鶴居村は、タンチョウの越冬地として有名で、毎年600羽以上のタンチョウが飛来します。タンチョウが冬に給餌に頼らずに自然のなかで餌を採り、生息することができる環境（冬期自然採食地）を整えるべく、JALグループでは、鶴居村の協力を得て、公益財団法人日本野鳥の会が行う敷地内の倒木伐採や、枝払いなどのお手伝いをしています。

ポイント

- ◎地域との繋がりを活かし、連携して取り組んでいる保全活動であること
- ◎社員の自主性を尊重し、生物多様性の重要性を認識しながら自発的に取り組んでいること

活動効果、今後の展開 等

- ◎世界自然遺産推進共同企業体、世界自然遺産推進共同体と共に活動を推進し、2021年夏、奄美大島・徳之島・沖縄島北部及び西表島の世界自然遺産登録を達成
今後も地域と連携した活動を通じ自然環境保護に努めていきます。
- ◎八重山漁業協同組合の有性生殖という新しい技術による種苗生産の実現を有性生殖・サンゴ再生支援協議会と共に支援
2026年までに10,000群体を育成することが目標です。
- ◎冬季給餌に頼らず自然の中でタンチョウが餌を取れる環境を鶴居村や日本野鳥の会と共に保全
今後も地域や法人団体にご協力頂きながら環境整備に取り組み、生物多様性の保全に貢献していきます。